

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.ajis.jp/ir/e-koukoku/index.html 〔ただし、電子公告によることができない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。〕



ホームページのご案内

当社ホームページには、会社情報やサービス紹介、ニュースリリースといった基本的な情報はもちろん、株主・投資家情報では、経営情報、財務ハイライトなどの情報をご覧いただけます。是非ご覧ください。



<http://www.ajis.jp/>

エイジス

検索

株主優待制度のご案内

株式会社エイジスは、株主の皆様への利益還元のひとつとして株主優待制度を実施しております。



割当
基準日

9月末日

優待内容

100株以上1,000株未満所有の株主様
お米券3kgを贈呈いたします。

1,000株以上10,000株未満所有の株主様
お米券5kgを贈呈いたします。

10,000株以上所有の株主様
お米券10kgを贈呈いたします。



(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

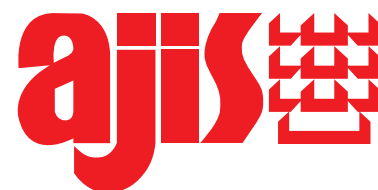


株式会社エイジス
〒262-0032 千葉県千葉市花見川区幕張町4-544-4
TEL:043-350-0888 FAX:043-350-0800

第40期 中間 報告書

2016年4月1日 — 2016年9月30日

売場の生産性を高める戦略的アウトソーシング



株式会社エイジス

証券コード：4659



代表取締役社長
齋藤 昭生

好調な業績推移を持続し、 中期経営計画の達成を 確実なものとしします。

—— そして、その先のエイジスへ

Q 当中間期までの事業環境と
経営成績についてお聞かせください。

A 厳しい事業環境の下、連結売上高、各利益ともに
中間期の過去最高を達成いたしました。

当第2四半期連結累計期間（以下、当中間期）におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善等により緩やかな回復基調が続いたものの、一方では、中国をはじめとする新興国経済の低迷や為替動向などにより、先行きは不透明な状況で推移しました。また、当社グループの主要顧客であります流通小売業界におきましては、消費者の節約志向が継続するなか、外国人観光客のインバウンド消費における高額商品の購入手控えによる百貨店の業績不振、総合スーパーであるG.M.S.で一部店舗の撤退が報じられるなど、消費の低迷を印象づける事象が続きました。

このような環境の下、当中間期の連結経営成績は、売上高が前年同四半期比で10.9%の増収となり、営業利益は27.2%（同）、経常利益は26.2%（同）、親会社株主に帰属する四半期純利益は33.6%（同）と、大幅な増益となりました。これは、期初の見込みを売上高が2.3%、営業利益が15.5%、経常利益が15.3%、親会社

株主に帰属する四半期純利益が22.2%上回るもので、連結売上高、各利益ともに中間期の過去最高を更新しております。

Q セグメントそれぞれの状況について
お聞かせください。

A 全てのセグメントが大幅な増益で
推移しております。

「国内棚卸サービス」については、売上高は前年同四半期比3.4%と微増でしたが、セグメント利益は20.6%（同）の大きな増益となりました。これは、当社がKPIとして当社内で計測している生産性の向上および料率の上昇による効果が大きく、特に生産性については3期前と比較すると約10%上昇しております。上記要因により売上原価に占める人件費が減少したことに加え、販売管理費も減少したことが大きく寄与しております。

また、引き続き棚卸閑散期の業容拡大に努めました。棚卸は、顧客の決算が集中する2月および8月が繁忙期となります。中間期の全社売上高に占める第2四半期（7月から9月まで）の売上高比率は、前第2四半期の61%が当第2四半期は59%に低下しました。これは、閑散期における「流通業周辺サービス」の売上高が伸びたことが、その要因として挙げられます。

「リテイルサポートサービス」につきましては、2016年4月1日付で当社の連結子会社であるエイジススタッフサービス株式会社と非連結子会社である株式会社プリズム・ジャパンが合併し、商号を「エイジスマーチャンダイジングサービス株式会社」に変更いたしました。この旧エイジススタッフサービス株式会社の既存サービス売上高が前年同四半期比で29.9%増加し、また、旧株式会社プリズム・ジャパンの既存サービス売上高も前年同四半期比で8.9%増加したため、セグメント売上高は2,766百万円と前年同四半期の1,782百万円から約1.6倍に増加しました。これまで、当セグメントを新たな事業の柱として大きく伸長させることを重点施策として据えてまいりましたが、全社ベースの連結売上高

に占める比率も、前年同四半期の15.7%から22.0%へと大きく上昇しました。一方、この合併効果による当期の利益への大きな貢献は見込んでいないことを前期の報告書で申し上げましたが、既存サービスの伸張により、セグメント利益は、前年同四半期の139百万円から209百万円に大きく伸びております。次期以降は合併による間接コストの低減という利益面での貢献も期待しております。

最後に「海外棚卸サービス」については、連結売上高合計に占める比率に関して、前年同四半期の売上高比率は9%を超えましたが、当中間期の売上高比率は7.8%へと低下しております。また、売上高の金額では、前年同四半期1,020百万円から当中間期980百万円と減少しております。しかし、これは円高を見込んで前期の報告書で申し上げた「当期は3%の増収・増益の見込み」から大きく外れたものではなく、現地通貨ベースでの売上高は8%を超える増収となっております。一方、セグメント利益につきましては、当中間期は91百万円と前年同四半期47百万円から大きく伸びております。前期は7つの海外連結子会社のうち、5つの子会社で黒字化を果たしましたが、当期は全ての海外連結子会社の黒字化を目指しております。

Q エイジスリテイルサポート研究所（ARI）を
設立された意図を教えてください。

A 次にエイジスが目指す「差別化」、
「高付加価値」への布石です。

顧客から「国内棚卸サービス」の分野で圧倒的なご支持をいただき、また、他社に先駆けて「リテイルサポートサービス」を行ってきた当社ですが、国内のチェーンストア情報だけでなく、生産性では約1.6倍である米国を含む海外のチェーンストア情報も収集、保有することにより、顧客に向けた新たなサービスの提供やデータの提供などに活かしたいと企画しております。現在、他社も「リテイルサポートサービス」への進出を考え始めておりますが、ARIがこのように外部環境の変化を調査し、蓄積した情報を活用

することにより、「エイジスならではのソリューション」という高付加価値、差別化の提供が可能になると期待しております。また、このことは、当社が目指している、「アジアのリテイルサポート企業への躍進」にもつながるものです。

Q 長時間労働解消に向けた取り組み状況を教えてください。

A 重点取り組みの決定、実行により大きな改善が図られています。

2016年5月19日付にて千葉労働局長より、違法な長時間労働について是正指導を受け、企業名が公表されました。その後、トップである私を委員長とした社内プロジェクトにおいて、「(本社による)労働時間管理の徹底」、「業務量の平準化」、「業務の効率化」の3点を重点取り組みとして掲げ、これを実行した結果、是正指導以降、月間100時間を超える時間外・休日労働を行った従業員は一人もおりません。また、月毎の進捗につきましては、当社ホームページで開示しております。

具体的な施策としては、社内基幹システムの改良による労働時間管理の即時化、棚卸の分散化推進、棚卸機器導入の前倒し実行などを、コストをかけて行ったのですが、このことが副次的に大きな効果を生みました。それは、割増賃金の減少が対策に費やしたコストを吸収したことです。効率化した業務を平準化して行うことにより、企業としてさらに筋肉質な体質となったことを実感しており、いわゆる労働災害リスクも低減したと考えております。

また、人財、価値観の多様性を意識した「ダイバーシティ経営」を継続し、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定を受ける「くるみん」の取得を目指して企業の社会的責任を果たす、という方針にも揺らぎはありません。

Q 中期経営計画の最後の2四半期の手応えを教えてください。

A 掲げた数値の必達に向けて、全社員一丸となってまい進します。

2017年3月までの3期にわたる中期経営計画につきましては、これまで3度、上方修正を行いましたが、その達成に向けて、当中間期までは順調に業績が推移していると考えております。4期連続の増収、増益、そして、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の全ての項目で過去最高を更新することを確実なものとするため、慢心することなく、残された期間を全社員一丸となって業務にまい進してまいります。そして、この中期経営計画の先にある「これからエイジスが目指す姿、方向性」を次期報告書でお示しいたいと考えております。株主の皆様におかれましては、当社グループの取り組みをご理解いただき、今後ともさらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。



国内棚卸サービス

主なサービス内容：
当社の実地棚卸サービス事業



国内棚卸サービス事業

商品棚卸●国内における利益管理・商品管理を目的として在庫金額・数量を確定するサービス。
資産棚卸●国内における企業オフィス等の情報機器、設備、什器等の固定資産の有効活用と管理を目的として資産を実地調査し、データベースを構築するサービス。
その他●単品棚卸システムを活用してPOSレジマスタに登録されている価格と売場に表示されている価格の不一致を実地に調査するスキャンチェックなど、流通業周辺の様々なサービス。

売上高	8,829 百万円
セグメント利益	1,193 百万円

棚卸閑散期の業容拡大および生産性の改善については、いずれも前期に続き着実に成果が表れました。利益面では、棚卸繁閑格差の是正による生産性の改善の他、料率の上昇および長時間労働是正による割増賃金が減少したことにより、原価改善につながりました。

海外棚卸サービス

主なサービス内容：
海外連結子会社の実地棚卸サービス事業



海外棚卸サービス事業

商品棚卸●海外における利益管理・商品管理を目的として在庫金額・数量を確定するサービス。
資産棚卸●海外における企業オフィス等の情報機器、設備、什器等の固定資産の有効活用と管理を目的として資産を実地調査し、データベースを構築するサービス。
その他●単品棚卸システムを活用してPOSレジマスタに登録されている価格と売場に表示されている価格の不一致を実地に調査するスキャンチェックなど、流通業周辺の様々なサービス。

売上高	980 百万円
セグメント利益	91 百万円

為替変動により減収となりましたが、現地通貨ベースでは引き続き売上増加基調で推移いたしました。利益面では、人材配置の最適化を進めたことによる原価改善に加え、中国事業における本部機能の統合および営業拠点の統廃合を進めたことにより、収益改善が進みました。

リテイルサポートサービス

主なサービス内容：
国内連結子会社のリテイルサポートサービス事業



リテイルサポートサービス事業

人材派遣●流通小売業周辺業務およびその他軽作業業務へ要員を派遣するサービス。
マーチャンダイジングサービス●棚割通りの棚替えや商品補充等により、売場作りを行うサービス。
カスタマーサービス・チェック●店舗における従業員の接客サービスレベルとストアコンディションを覆面調査員が調査するサービス。

売上高	2,766 百万円
セグメント利益	209 百万円

エイジスマーチャンダイジング株式会社は第1四半期における連結子会社の合併効果に加え、既存サービスの受注増により売上高が大幅に増加しました。エイジスリサーチ株式会社は販売チャネルの多角化が進み増収となりましたが、さらなる業容拡大に向けた人的投資を行った結果、販売管理費が増加し減収となりました。

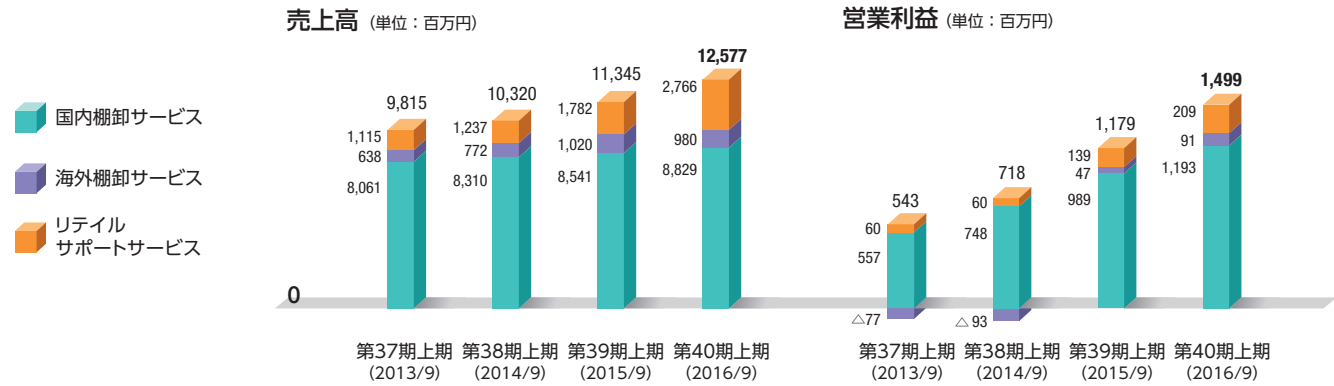
当中間期の業績について
3つのポイント

- POINT 1

連結売上高、営業利益で中間期過去最高を更新
4期連続増収増益となりました(第2四半期累計)
- POINT 2

全セグメントにおいて大幅な収益改善
各セグメントで生産性の向上が進み、原価の改善が進みました
- POINT 3

是正指導を受けた長時間労働は解消
月間100時間を超える時間外・休日労働を行った従業員は0名となりました



株主還元姿勢は、「配当性向」だけでなく、「DOE」、そして、「自社株買いおよびその償却」も含めて判断されるべきである。同社は、過去3期にわたり、自社株買いを行っている。この金額を加えた前期の株主に対する総還元性向は63.1%と極めて高く、「配当性向」だけで株主に対する還元姿勢を語ってはいけない会社の典型であると考えられる。

スプリングキャピタル株式会社 代表取締役社長
井上 哲男氏

30年にわたるヘッジファンド、投資信託の運用を経て現職。日経CNBCテレビ「夜エクスプレス」、ラジオNIKKEI「アサザイ」のキャスターも務める。

井上哲男が
見るエイジス

当社の経営指標について、統一基準で長年企業ランキングを作成しているスプリングキャピタル株式会社代表取締役社長の井上哲男氏に分析していただきます。

株式の状況

発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式の総数	5,385,600株
株主数	2,210名

大株主(上位10名)

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
有限会社齊藤ホールディングス	941,500	17.48
齊藤 昭生	706,780	13.12
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO) (常任代理人) 株式会社三菱東京UFJ銀行	482,000	8.95
齊藤 茂男	203,900	3.79
小林 美保子	191,800	3.56
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	142,300	2.64
齊藤 泰範	127,670	2.37
清水 昭順	80,070	1.49
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/ JASDEC/FIM/LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS (常任代理人) 香港上海銀行東京支店	75,000	1.39
エイジス従業員持株会	69,680	1.29

(注)当社は、自己株式982,754株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。

会社概要

会社名	株式会社エイジス(英文名 AJIS CO., LTD.)
資本金	475百万円
設立年月日	1978年5月23日
従業員数	246名(666名 ※連結)
営業拠点	直営50ヵ所 FC36ヵ所(合計86ヵ所)
事業内容	実地棚卸サービス
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行 千葉銀行 みずほ銀行 三井住友銀行
ホームページ	http://www.ajis.jp/

取締役および監査役

代表取締役社長	齋 藤 昭 生
常務取締役	高 橋 一 人
取締役	竹之下 正 夫
取締役	山 根 洋 行
取締役	福 田 久 也
取締役	森 和 弘(社外取締役)
常勤監査役	増 子 泰 由(社外監査役)
監査役	鈴 木 行 雄
監査役	船 橋 茂 紀(社外監査役)

「配当性向」だけでなく、「配当性向」と「ROE」を掛け合わせた「DOE」(株主資本配当率)という指標が、欧米、そして日本でも“真の配当性向”として注目を集めている。この数値は結果的に「配当金／株主資本」となり、その逆数が「配当により、何年かけて株主に株主資本を還元するか」を意味するものである。同社のDOEは直近2期にわたり、全社平均を小幅に下回っているが、当期の利益見込み、配当見込みから予想されるDOEは3.7%となり、全社平均を1%程度も上回ることとなる。この順位は、全社(3,238社)中、上位から400位程度と推測される。

